

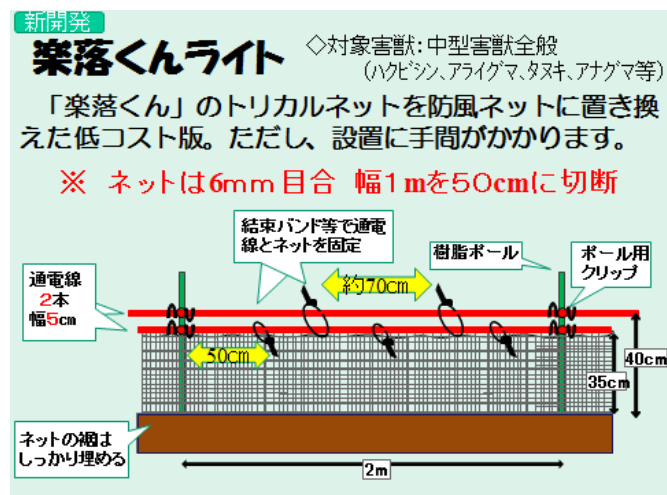
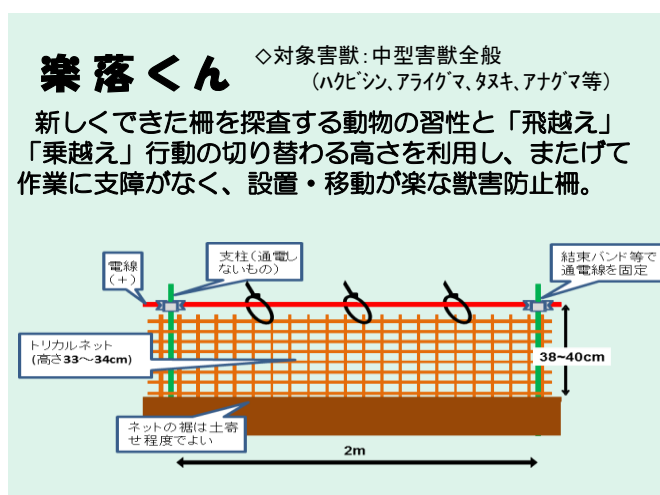
防風網で低コスト化 ー電気柵「楽落くんライト」を新開発ー

1 電線だけでは防ぎづらいアライグマ等の中型野生動物

アライグマ、ハクビシン、タヌキなどの中型野生動物や、イノシシによる農作物被害が増加しています。被害を防ぐために、電気柵の設置が各地で進められています。電気柵は、感電で野生動物に痛みを感じさせ、畑への侵入を防ぐものです。

しかし、「電気柵にアライグマが侵入した。」「電気柵を張ったが効果がない。」という声をよく聞きます。これは、アライグマが毛皮で覆われているため鼻等の電気の通りやすい部位や、電線に対し強く接触しないと感電の効果を得られないのが原因です。

そこで、アライグマのような中型野生動物が飛び越えるか、柵に足をかけて乗り越えるかの境界となる高さ40cmに電線を張り、その下をネットで囲う被害防止柵「楽落くん」を開発しました。この「楽落くん」は、網状の柵を乗り越えようとする際に、獣が前脚をかける動作と体重がかかることによって、強く電線に接触し、効果的に感電させるものです。



2 防風網で低コスト化

「楽落くん」は電線の下からの侵入を防ぐため合成網のトリカルネットを使っています。しかし、このネットは材質が硬く加工しにくく、単価も高い欠点があり、利用が拡大しませんでした。

そこで新たに、ネット部分を安価で、手軽に入手できる防風網に置き換えた柵「楽落くんライト」を開発しました。

防風網は合成網のトリカルネットと比較すると柔らかく、動物が乗り越えようと体重をかけると、下方へ伸びてしまうという欠点がありました。そこで、上部に張る電線を5cm以内の間隔で2本に増やし、伸びて沈んだネットと上下の電線の間隔が広がらないように、2m毎に5カ所を固定する(図2)などの改良を加えました。

その結果、「楽落くん」の効果はそのままに、設置費用(電気ユニットを除く)は1m当たり400円から260円に削減できました。防風ネットの裾を土に埋めるなど設置する手間は、「楽落くん」より少し増えますが、より安価になった「楽落くんライト」を、生産現場に普及していきたいと思います。

なお、詳しい設置方法は埼玉県農業技術研究センターホームページに掲載しています。

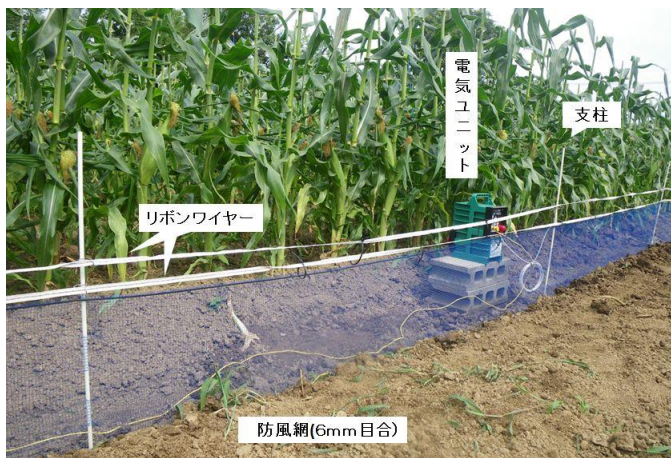


図1 楽落くんライト設置状況



図2 上下の線が広がらないよう固定

【問い合わせ先】 埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当
鳥獣害防除研究(秩父農林振興センター内に駐在)

電話：0494-25-1660 FAX：0494-22-9152

※埼玉県農業技術研究センターホームページ

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>